

「メダカの学会」で関心を

豊岡 来月5、6日にシンポ



童謡「めだかの学校」でも歌われたメダカについて研究発表をする「第20回全国めだかシンポジウム in 豊岡」(日本めだかトラスト協会主催)が11月5、6日、豊岡市妙楽寺の但馬文教府で開かれる。豊岡市での開催は7年ぶり2回目。同協会は「大勢の人にメダカへの関心を持ってもらいたい」と参加を呼びかけ、当日参加も歓迎している。

当日参加も歓迎

メダカは体長約4センチ。目が大きく、頭部の上端から飛び出していることが名前の由来という。蚊の幼虫のボウフラを食することから益魚として知られている。環境の変化で年々、減少。環境省は絶滅危惧種に指定している。豊岡市での1回目のシンポでは、研究者を増やすことを目的にメダカ研究の取



繁殖しているメダカを観察する岡本邦夫さん。豊岡市の六方めだか公園

▶神戸総局
〒650-0015
神戸市中央区多聞通
4-1-5
TEL078 (351) 1771
FAX078 (361) 3001

購読のお申し込みは
0120 (34) 3733
広告のお問い合わせは
078 (371) 0112

情報は
こちらまで
Eメール
kobe@sankei.co.jp
ニュースはこちらも
ほかでは読めない
関西発
産経 WEST
sankei.com/west/

り組みが紹介された。今回は但馬関連の研究成果を発表する。
5日午後1時からの同協会総会に続き、同シンポの開会式、同協会の尾田正二会長(東大大学院准教授)の基調講演「メダカともコロナとも」がある。
同2時50分から、豊岡市出身の九大大学院生、岡本啓吾さんの「日本メダカとインドネシアメダカの見え目の違いを解き明かす」、コウノトリ市民研究所の北垣和也さんの「豊岡周辺の小川調査で見つけたメダカたち」などの研究発表が行われる。
6日は午前9時から同市内の六方めだか公園、ククイ湿地、コウノトリ文化館の体験見学会を予定している。
シンポを共催する「六方めだか公園」を運営する岡本邦夫さん(68)は「但馬のメダカ研究は全国でも先進地になっているので、今回のシンポを通じて後押ししたい」と話した。
両日とも参加無料。問い合わせは岡本邦夫さん(090・1024・3152)。